

エビの腰が曲がつたわけ

(秋田県)

むがあつたぞん

むかし、あるところに、タカとエビがなかよく暮らしていました。
ある日のこと、タカがエビにいました。

「おれはあしたから世界一周してくるよ。三十日たつたら帰つてくる」

あくる朝早く、タカは大空にまいあがり、矢のように飛んでいきました。そして、ちょうど三十日目に反対の方角から飛んで帰ってきました。そして、エビに世界のめずらしい話を聞かせました。

エビは、自分も世界一周したくなりました。けれどもタカは、

「おまえはつばさもないし、足もよわいからむりだよ。世界一周なんてやめたほうがいい」といつてとめました。けれどもエビはどうしても行くといって聞きません。そこで、タカは、

「じやあ、行けばいいが、山の方は通らないで、海辺や川岸を通つていくんだよ。山を行くと、ところどころ火をふいている所があつて、焼け死んでしまうからね」と教えてやりました。

エビはさつそく出かけました。けれども、タカが教えてくれたとおりにしないで、山の方ばかり通つていきました。そして、世界の半分まで回りました。エビは、

「火をふいている所なんかなかつたじやないか。タカのやつ、うそを教えたんだな」と思つて、また山の方ばかり選んで進んでいきました。

とつぜん、大きな音がして、山が爆発しました。大きな石が飛んできてエビの腰に当たり、エビはばつたりたおれで死んでしまいました。

いっぽう、タカは、いつまでたつてもエビが帰つてこないので、心配になつてさがしに行きました。ずうつと飛んでいくと、エビがたおれているのが見えました。タカはびっくりして下りていきました。すると、エビのお腹から、たくさんの子エビがうようよ生まれていました。タカは、かわいそうに思つて、子エビたちをみんな羽に乗せて連れて帰りました。

タカは、子エビたちに、

「おまえたちの母さんは、いうことを聞かないで山の方を通つたから死んでしまつたのだがよ」と話してきかせました。そこで、子エビたちは川や海で暮らすようになりました。そして、親のエビが腰を打つたので、子エビたちはみんな腰が曲がつてているのだそうです。おしまい